

気象庁とXMLコンソーシアム「気象庁防災情報XML フォーマット」についての 第1回ご意見募集 に対して寄せられたご意見及びその対応

※1 意見募集の期間(平成20年5月22日(木)～平成20年6月20日(金))

※2 公開の基準等

- ・事務局に寄せられたご意見については、質問の主旨に応じてまとめた。
質問内容については原文を活かしつつ、事務局にて編集している。
- ・個人が特定できる情報(氏名、住所、電話番号、メールアドレス)については割愛した。

ご意見①

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
<p>まず、技術的な標準であるXMLにて、防災情報が記述されることの意義は大きいと思います。</p> <p>ただし、XMLは、データ記述の自由度が高い技術ですが、あくまでも役割は書式を定義することです。大事なのは、中に記述されているデータです。</p> <p>言い換えれば、価値の高いデータを明快な指針の元に有効に活用できることで、技術標準化がすすんでいるXMLフォーマットの有効性も際立つものと思います。データの活用法や実運用についても、より具体的にご記述くだされば、非常にありがたいです。</p>	<p>活用法については、利用例として簡単なものを年度末の完成版に添付する予定ですので、それをご参考にさせていただければと考えています。</p>

ご意見②

・投稿者:(東京都 会社員)3名

ご意見	対応
<p>フォーマットのバージョン管理方針を明確にして欲しい。並列して複数のフォーマットで提供されるのか？また、バージョンアップに際しては、少なくとも数ヶ月の十分な準備期間を確保して欲しい。</p>	<p>スキーマの運用・管理方法に対する考え方については、いただいたご意見等を踏まえつつ、「気象庁防災情報XMLフォーマット(ドラフトVer0.9)」の「2. 3 XMLスキーマの管理・運用」に整理いたしました。</p>
<p>名前空間による識別を利用されていますが、名前空間の変更を伴うXMLフォーマット(スキーマ含む)の更新の頻度や方法について、想定されるシナリオをお持ちであれば、お教えてください。(例:正式運用開始後、8年程度で見直し予定など)具体的な想定がない場合には、イメージだけでもかまいませんので、お教えてください。また、更新がある場合、周知と十分な猶予期間をいただきたいです。</p>	
<p>XMLスキーマの確定はいつごろを予定していますか。スキーマの運用・管理についてはいつごろ確定しますか。</p>	
<p>また、anyやunionを使用した拡張、変更についてですが、XMLが柔軟な変更に対応するフォーマットであるがゆえに、混乱を招く元となるように見えます。変更後の電文を受信しても、変更前に構築されたシステムに影響がでないつくりにするなど、ご配慮いただけますよう、お願いいたします。</p>	
<p>any、unionはどのようなケースでのみ使用する、要素の追加は末尾にするなどスキーマを改訂・拡張してゆく際のガイドラインも示して欲しい</p>	
<p>気象庁防災情報XMLフォーマットドラフト(2008/5/22版JAMXML Ver.0.1)に記載されている、「項目やコード値の追加や変更」、「急な観測点の追加など」と記載されておりますが、変更可能なものに付きまして今後具体的な決定は行われるのでしょうか？また、変更周期等考えられておりますでしょうか？</p>	
<p>気象庁防災情報XMLフォーマットドラフト(2008/5/22版JAMXML Ver.0.1)に記載されているスキーマにつきまして、急な観測点の追加などにも対応する旨の記載がございましたが、変更がある場合どのようにご通知いただけるのでしょうか？</p>	

ご意見-③

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
p10 2.4 XMLスキーマの管理・運用 情報受信側システムはスキーマと突合せを行い、情報の妥当性検証を行うことを求めるのか？	スキーマはシステム設計に使用していただくために公開するものであり、利用者側での妥当性検証を求めるものではありません。

ご意見-④

・投稿者:(東京都 会社員)(神奈川県 会社員)

ご意見	対応
緊急地震速報についてXML化されると、処理に時間がかかるようになりエンドユーザーまでの伝達が遅くなる。現行の電文とXMLを並行配信を希望する。 既存の電文をXML文書にすることで、サイズが大きくなります。伝送する回線が遅い場合、即時性が失われる場合も考えられます。この場合、圧縮して伝送するなどの対策があります。が、その点、実運用に向けてのお考えをお教えてください。 また、組み込み機器などの場合、XML文書のサイズが大きくなると、メモリを大量に消費する可能性があるため、配慮が必要となります。XML文書の最大サイズについては、仕様化の予定はおありでしょうか。あわせてお教えてください。	XML電文の提供開始後も、移行期間としてしばらくは現電文との並行配信を行う予定です。ご指摘の緊急地震速報については、今後技術動向を見極めつつ運用について検討していきたいと考えております。 圧縮等の対策について、伝送プロトコルについては現在検討中ですが、現状の気象庁手順の拡張による利用に場合は、原則として圧縮を行い、SOAPベースの伝送手順の場合は、XMLのメリットを生かすためにも原則として非圧縮とする方針でいます。 また、XML電文のファイルサイズについては、いただいたご意見等を踏まえ「気象庁防災情報XMLフォーマット(ドラフトVer0.9)」の表1.1に目安となる平均値、及び最大値を記載いたしました。

ご意見-⑤

・投稿者:(埼玉県 会社員)

ご意見	対応
資源の十分でない中小企業が移行できるかの検証が必要で、場合によっては援助が必要。 実運用まで含めた検証は充分に行われていくであろうが、本件普及のためにも、企業体力や人材の不足する中で、費用対効果にも厳しい目をもつ、中小企業の意見に最大限	ドラフト版に対する意見は最大限取り込んでいくよう努力していきたいと思えます。

ご意見-⑥

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
提供された防災情報を配信事業者として配信する際の管理を目的に、配信事業者としてのシーケンス番号やタイムスタンプなどを付与したいと考えている。この防災情報XMLをサブツリーとして丸ごとくるむように自社のXMLに入れることを認めるまたは管理部を独自に利用できるようにして欲しい。	XML電文のメリットを生かすための利活用方法について、防災情報として担保しなければならぬこととの整理と合わせて、現在検討中です。

ご意見-⑦

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
提供開始時期が対象分野、情報内容によって区々ですが端末でのマイグレーションはどのように想定しておくべきでしょうか。	当庁から提供する情報については、頂いた意見等をもとに提供時期をできるだけ統一する方向で調整中です。詳しくは「気象庁防災情報XMLフォーマット(ドラフトVer0.9)」の表1.1をご覧ください。

ご意見-⑧

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
本件のXMLデータへのアクセシビリティはどのように提供される予定でしょうか。(現行電文と同様に気象業務支援センターを介して有償配信するのか、Web等で無償公開するのか、公開する場合その方法は?)	現在と同じく気象業務支援センターを通じての配信を予定しております。なお、Webでの公開は今のところ未定です。

ご意見-⑨

・投稿者:(宮城県 会社員)

ご意見	対応
XMLで提供されるデータについてですが、注意報警報等の防災情報がメインだと思いますが、アメダス等の観測データはXML化して公開する予定はないのでしょうか?	XML化電文の予定は現在のところ表1.1に記載されているものであり、アメダスデータのXML化については未定です。

ご意見-⑩

・投稿者:(東京都 会社員)2名

ご意見	対応
コード辞書の書式についても、今回のXML化のように、標準化される予定はおありでしょうか。教えてください。また、Web上での公開を行うなど、入手性についても、ご配慮いただけると助かります。 p4 1.3.6 領域(都道府県、市町村、独自細分区域)表記 各コード表も情報利用者が必要となること想定されるため同様の定義の上、XMLで提供して欲しい。	コード辞書については、たとえば市町村を示す部分については全電文においてJISコードを用います。ただし、その他の多くのコードにおいては、各電文によって情報の性質が大きく異なるため、電文ごとのコード体系となるものもあります。なお、公開方法については、利用者の便宜を図る方向での提供方法について検討中です。

ご意見-⑪

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
XMLフォーマットの部分に対して天気図のグラフィックデータ(画像)への参照(URI)もあれば良い。	受け手側においてインターネットにつながる環境を必ずしも想定してはいないので、画像データへの参照は行わない予定です。

ご意見-⑫

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
<p>気象庁電文の表示確認用にxHTML形式へ変更するスタイルシートと、xHTML自体で送信してもらう機能が必要です。</p>	<p>表示確認用の簡単なスタイルシートについては、利用例として年度末の完成版にサンプルを添付する予定ですが、他のソフトウェアへ組み込んで使うなどを想定したものではありませんので、業務上の使用に対しての動作保証はできません。利用者の方々において、サンプルを参考に様々な実装をしていただければと考えています。</p>

ご意見-⑬

・投稿者:(東京都 会社員)2名

ご意見	対応
<p>表1.4.22 type.control/@Type属性についてです。とりうる値が列挙されていますが、意味・用途が定義されていません。このような値は、必要となった場合に、明確な意味や使い方と共に、定義された方がよいのではないで辞書 表1.4.1.1 訂正報、遅延、修正がそれぞれ10個ずつ用意されているが、使い分けと具体的な利用方法が分からない。初期の実装が不要であれば、他の要素と同様に将来に追加する方針として欲しい。また、配信事業者が独自にフラグを設定できるようなものを用意して欲しい。</p>	<p>「訂正」「遅延」「修正」については、ご指摘を踏まえ再検討した結果、10個の使い分けを行う必要性が薄いという結論に至ったため、1つつとしました。</p>

ご意見-⑭

・投稿者:(東京都 会社員)2名

ご意見	対応
<p>表1.4.22 type.HypoAreaCoordinate/@datum属性についてです。具体的な値としては、「日本測地系」と書かれていますが、これは、2002年の測量法改正後の測地系(JGD2000)を意味されているのでしょうか、それとも、旧来の世界測地系との誤差がある測地系を意味されているのでしょうか。</p>	<p>日本測地系の表記は旧日本測地系(Tokyo Datum)に基づいていることを示しています。</p>
<p>p4 1.3.5 地理空間情報(位置)表記 測地系は世界測地系と日本測地系の両方を使うのか？</p>	<p>基本的には世界測地系を使用しますが、地震津波関係電文で日本測地系を使用することがあり、その際はタグの属性に明記する予定です。</p>

ご意見-⑮

・投稿者:(東京都 会社員)

ご意見	対応
<p>辞書 表1.4.2.2 項番10 type.EarthquakeのArrivalTimeは他の要素(例 : type.FirstHeight)のArrivalTimeと意味が異なり、同じ要素名であると紛らわしい。type.Earthquakeの方の要素名を変更して欲しい。</p>	<p>ArrivalTimeは地震波や津波などが発現する時刻を示しているものであり、意味は同じものと考えます。 また、“Arrival time”という用語自体は地震・津波ともに論文や英文等での使用頻度が高いことから、利用することが適切であると考えております。</p>